

良質なサイレージづくりのための施肥改善

農繁期がスタートしました。コスト低減とサイレージ品質保持のため今一度、草地への肥培管理を見直してみましよう。

一、施肥量を見直す

堆肥舎やスラリーストアの容量によって、春先に散布せざるを得ない場合、スラリー散布量に応じた肥料の削減が可能です(表1)。

スラリーに化成肥料を加えると窒素やカリが過剰となり、牧草中の硝酸態窒素が高まりサイレージの品質にも悪影響を与えます。

表1 スラリー施用量と肥料成分の過剰量

スラリー 施用量	肥料成分量* kg/10a		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
1t/10a	2	0.5	4
5t/10a	10	2.5	20
10t/10a	20(+4)	5	40(+18)
20t/10a	40(+24)	10(+2)	80(+58)
施肥標準	16	8	22

・()内は施肥標準年間施肥量に対する過剰量
 *肥料成分施用量は、肥効率を見込んだ有効成分量
 ※チモシー単播経年草地、道東地区(火山性土)

有機物の肥効に応じた施肥を行ってコスト削減に努め、良質なサイレージづくりをめざしましょう。

二、スラリー等の散布を見直す

早春にスラリー等の有機物を散布する場合は、①融雪後なるべく早い時期に散布する②散布後収穫までに五〇日以上あける、ことが鉄則です。

しかし、融雪の遅れや降雨による滞水で草地が乾かない場合が多く、作業的に忙しい思いをしているのが現実です。

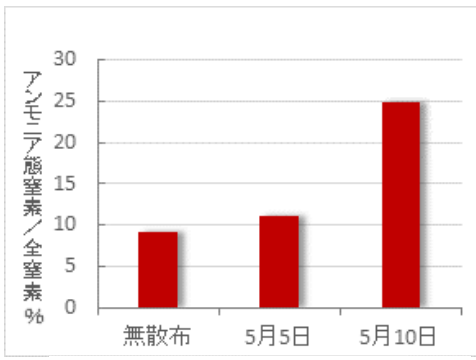


図1 散布時期によるサイレージの全窒素中アンモニア態窒素含量

散布後に1番草収穫までの期間が確保できないことと、有機物の混ざる量が多いほどサイレージの発酵品質が悪くなりやすく、

牛の疾病が増える要因となります(図1・表2)。

表2 たい肥混合がサイレージ発酵品質に及ぼす影響

サイレージ	pH	VBN/TN* %	フリーク評点**
無 処 理	3.75	5.1	100
腐熟たい肥4%混合	3.83	5.7	65
生たい肥4%混合	3.91	5.9	60

*VBN/TN=揮発性塩基窒素/全窒素
 **たい肥混合によるフリーク評点の低下は酪酸の増加による

それを防ぐには、春先のスラリーやたい肥散布時期は、五月中旬までに終えましょう。



三、肥料の散布時期を早める

肥料の散布時期を早めることで乾物収量が高くなります(図2)。できるだけ萌芽期後(四月二十五日前後)に草地の状態を確認し、乾いたところから早めの作業を心掛けるように肥料散布の計画を立てましょう。

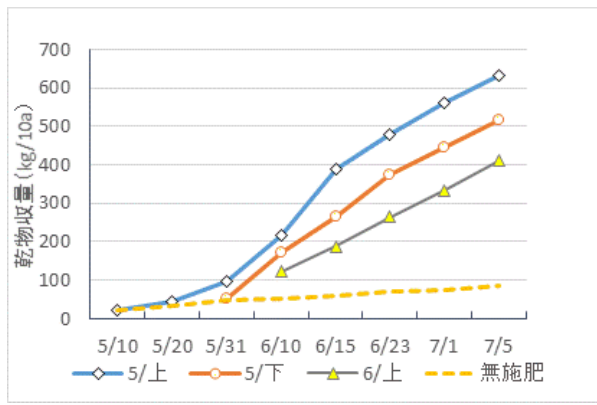


図2 施肥時期の違いによる乾物収量の差

◆肥料設計を希望される方は、普及センターまでお問い合わせください。